

2023年9月号

故郷の人物を知ろう

たかおか

おん こ ち しん
温 故 知 新

高岡の孝子／石瀬屋六兵衛(1755~89)

「孝子六兵衛」こと石瀬屋六兵衛は高岡を代表する孝行者です。六兵衛は一番新町の生まれで初名は弥三。生来大変な孝行者で正直・謙虚でした。父を早くに亡くし、幼時より米運びなどで家計を支えました。母は大変な酒飲みで酔うと人を罵り、地面を響かせて暴れるので「動地婆」とあだ名されました。六兵衛は稼ぎを全て母に渡し、罵られても逆らわず心から従いました。千保川の洪水で町が水没した時には酒を飲みたいという母のために、泳いで橋番町に酒を買いにいきました。そんな六兵衛の孝心は隣町まで広まり、皆感化されたといえます。

ある時、六兵衛は現末広町の影無し坂で赤衣の仙

人に出会い、「近いうちに幸福を与えよう」と告げられます。程なく町奉行より免税と銭500文を、さらに藩主より生涯三人が暮らせる分の米を賜りました。

学問や政治において儒教が重視された時代、六兵衛の話は『加越能三州孝子伝』(1794年)、『高岡湯話』(富田徳風著、1807年)等に収録され、徳風は1809年顕彰碑も建てました。現在でも毎年「孝子祭」が行われています。また1935年には市民映画『輝く孝道』も制作されました。(仁ヶ竹主幹)



孝子六兵衛顕彰碑(末広町)

問合先 博物館 ☎20-1572